

祭事暦

1月1日 零時 八方除祭
 引き続き 元旦祈禱祭
 午前6時 八歳旦祭
 引き続き 末社歳旦祭
 1月2日 午後8時 元追儺祭
 1月3日 午前8時 元始祭
 1月8日 午前10時 元武佐弓祭
 1月20日 午前8時30分 元月次祭



発行所
 寒川神社社務所

〒253-0195
 神奈川県
 高座郡寒川町宮山3916
 電話 代表0467(75)0004

編集者 水谷智賢
 責任者
 印刷所 樹さんこうどう



鎮守の森

氏子崇敬者の皆様におかれましては清々しく新年を迎えられたことと衷心よりお慶び申し上げます。

昨年十二月十六日には衆議院議員総選挙が行われ、あわただしい年の瀬から新年を迎えております。今回の総選挙は二十九年ぶりの師走選挙となつたとのことですが、それだけ政治・経済・外交等の問題解決が急がれるからなのでしょう。私たちも、新政権のもと、震災復興、平和安定はもとより、一層の豊かな生活・繁栄が計られることを強く期待しているところです。

歴史を振り返ったとき、世界中でわが国ほど戦争や紛争などの惨禍が少なく、平和を享受してきた民族はないといわれています。しかも世界に誇るべき豊かな文化を築いてきました。それを可能にしたのは、島国である事と、「国や社会・家があつての個人」という考え方が基盤にあつたからです。人は一人では生きられず多くの人々に支えられていることを感じ、国や社会を信頼して生きてきたからです。今の私たちも将来にわたつて豊かな生活を望むなら、自然や祖先、社会や周囲の人々に心から感謝し、各々が役割を果たす生き方をしていかなければならないと思います。

今秋、伊勢の神宮ではいよいよ二十一年一度の第六十二回式年遷宮が斎行されます。千三百年に亙つて連綿と続けられてきた式年遷宮は、日本人としての原点を今に伝えてくれています。御遷宮は、世界の人々の繋がりが狭義的になるうとしていく中で、改めて先人の歩みを見つめ直し、互いに尊重しあう社会、共存共栄が計られる大きな契機です。
 (石腰 亮)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

平成二十五年年頭のご挨拶

宮司 利根康教



新年明けまして おめでとうございます

新春を迎えるにあたり謹んで聖寿の万歳と御皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、国の隆昌と氏子崇敬者皆様方のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

天皇陛下におかせられましては昨年ご手紙をお受けになられました。が順調に回復されご多忙なご公務を行われております。両陛下には心々お健やかにお過ごしいただき、御皇室の御安泰、平成の御代が未永くますます栄えますことを心より御祈念申し上げます。

今上陛下御製

白石を 踏み進みゆく 我が前に
光に映えて 新宮は立つ

天皇陛下の御聴許をいただき準備が進められていきます。第六十二回式年遷宮も今秋いよいよ「遷御」の儀を迎えます。わが国が世界の重要なべき伝統文化を次代に継承することの重要性に鑑み、この重儀が国民総奉賛の下滞りなく斎行されますよう微力ながらも応援させていただきます。

昨年を顧みますと東日本大震災後の復興や原発処理問題等に遅れが生じており、気象の変化による高気温や竜巻等の自然災害も発生しました。明るい話題としてはロンドンオリンピック、ロンドンパラリンピックでの日本

選手の活躍がありオリンピックではメダル獲得数が過去最多となりました。海外に目を向けますと欧州連合では経済の先行きに対しての不安を完全に払拭しきれれておりません。またロシア、フランス、エジプト、アメリカ韓国などで大統領選挙が行われました。わが国でも十二月には三年三ヶ月に亘りました民主党主体の政権から自由民主党主体の政権に移行し安倍内閣が誕生いたしました。

当社におきましては御神札をお納めいただく納札殿の竣工、明治天皇百年奉告祭高行古事記編纂撰上干三百年を記念して古事記神話を題材とした平野啓子先生神話の語り、相模新能を開催し多数の皆様にご鑑賞をいただきました。当社は八方除守護神として古くより敬仰されておりますので国家安泰、世界平和を願ひ渾天儀を建立いたしました。

青少年教育養成活動では鎮守の森を活動の場として育成されておりますポイスカウト・ガールスカウトが五年に一度伊勢の地に集う「第十一回神社スカウト全国大会」が開催され、当社からもポイスカウト寒川第二回ガールスカウト神奈川第四十五回が参加いたしました。また最終日には寒川神社少年館の館生も見学に訪れ、翌日には三団体合同にて宿泊、キャンプファイヤーを行い百五十名以上の参加者が一つの焚火を囲み親睦の一夜を過ごすごうが生まれました。ポイスカウトは本年四十四周年、ガールスカウト、少年館は共に昨年三十五周年を迎えました。少年館に児童教育振興会が顕彰する「博報賞」を頂くことが出来ました。

相模國一之宮寒川神社は寒川大明神の広大無辺な御神徳著しく八州方除け総鎮守、唯一無二の八方除守護神として地相・家相・方位・日柄等に由来するすべての悪事災難を被い除く御靈験はあらたか古来より全国の方々に崇敬されております。本年も元旦零時の八方除祭に引き続き元旦

祈禱祭を斎行し、午前六時の歳旦祭にて御皇室の弥栄と日本國の隆昌を祈念いたしました。今上陛下御製

波立たぬ 世を願ひつつ 新しき
年の始めを 迎へ祝はむ

平成二十五年は皇紀二、六七三年にあたり干支は癸巳（みずのとみ）、甲子から始まる順番では丁度半分の三十番目になります。十干は癸（みず）の、五、十二支は巳（み）です。癸は陰暦五行説の水性の陰にあたり雨露・沼沢・小川・胎（胚）を象徴し、生まれ出づるのを待ちわびています。十干の中で陰が一番強い性質となっており、外観は穏やかでやさしく謙虚で我慢強く忍耐、柔軟性があります。エネルギーがポジティブな方向にむかえば、知的で革新的なアイデアが改善をもたらすでしょう。巳は火性の陰にあたり草木が成長し極限に達した状態を示し、不可思議で先が読めない等の意も含まれます。癸の水は巳の火を剋しますので、それぞれが衝突する関係となっています。巳の上にある

水は革命、小競り合いなどを暗示しており過去の歴史からも国際紛争や争いごとが起きやすい年となり核問題は要注意事項です。世界情勢は依然として混迷を極め、我が国でも外交諸問題・経済状況は出口の見えにくい状態が続きます。しかし五黄土星（ごおうどせい）が中宮に入り後天の定位となり、すべての星が所定の位置に収まることから、しかるべき姿に立ち還れるきつかけを掴む年です。うまくすれば本来の在るべき正常な状態に復せま

す。平成十三年より登場の迎春干支ねぶたも正月の風物詩として定着してまいりましたがお隣様に昨年一巡、一区切りとして終了することになり古事記上巻の國生みをモチーフに開運 國生み「大八洲」と題し、天地開闢から日本列島を造り終るまでを集約して制作し、神門に奉灯し、初詣の皆様をお出迎えております。

氏子崇敬者の皆様方にとりまして、更新する発展の巳年となりますよう心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

頌春



宗教法人寒川神社

責任役員

横溝 隆義 市川 元久
関根 晃 入澤 一三

顧問

藤沢 賢一 伊藤 留治
小林 亮 山田 文夫

参事

飯田 誠 根本 康明
山上 貞夫 藤田 善三

高橋 春吉

金子 昭

大川 静男

中島 啓介

副総代長

小菅 弘高

総代

新屋 幸次 中島 明
伊澤 健治 田中 茂久
金子 脩 野口 勇

金子 年男

佐々木 一士
松尾 篤史 関根 隆
林 新吾 宇田川 昇
高橋 政雄 中村 昭雄



祭典終了後は、参集殿において記念式典が行われ参列者全員にて国歌「君が代」斉唱、聖寿万歳が声高々に行われました。

十二月二十三日、天皇陛下におかれましては満七十九歳の御誕生日を迎えられました。
この慶事を寿ぎ、また陛下のご長寿と御皇室の弥栄国家の繁栄、氏子崇敬者の隆昌を祈念する天長祭が厳粛に斎行され、ご参列の皆様は、陛下御誕生の日を心よりお祝い申し上げ、真心を込めて玉串を御神前に捧げました。

天長祭齋行

多田名誉宮司講演される



今回の講演は、名誉宮司である多田一馬氏が「神道と敬神の心」との演題にて人間は自然を始め天地の神々の恵みにより生かされ生きており、その自然との調和の中で先祖伝来の文化を尊重し、人としての繋がりをもって共存共栄の道を開いてきたのが神道であります
皆様方には是非とも敬神崇祖の心を持って、感謝と祈りを捧げ、心の働きを強め、生きる活力と安らぎを得て、心豊かな生活を送って頂きたい。と長年の経験と実話、古の諺を引用されながら語られました。

迎春神話ねぶた「神門を飾る



平成二十五年癸巳年の迎春ねぶたが神門に飾り付けられ、初詣でご参拝の皆様をお迎えしております。
十三回を迎え、干支も一巡した今回は、古事記の神話であるイザナギ・イザナミノミコトの国生みをテーマとし、第五代ねぶた名人に認定された千葉作龍氏により、本年が更なる開運の年でありますようお願いいたします。

が宮中で行われます。
当社では同日午前八時この祭典にあわせ元始祭を執り行い、皇室の元始をしのび、皇室の弥栄と国家国民の繁栄をお祈りいたします。



されました。
このねぶたは二月三日の節分まで飾られ、夜間には灯が入られます。

今日の祭事

⊙ 八方除祭
元旦祈禱祭
歳旦祭
一月一日(火)

午前零時、新年の幕開けを告げる大太鼓が境内に鳴り響く中、八方除の御神威の更なる発揚を願う「八方除祭」が行われます。続いて「元旦祈禱祭」、同六時には「歳旦祭」が斎行されます。

⊙ 追ひ
雛
祭
一月二日(水)

午後八時、邪気災厄を祓い除く「追雛祭」が、境内すべての灯火を消した浄壇の中で執行されます。
祭典終了後には、御神前に備えられた弓矢が魔除けのお守りとして、ご参集の皆様にご配られます。

⊙ 元
始
祭
一月三日(木)

年の初めにあたり、皇位の大本と由来を祝した祭典

⊙ 武佐
弓
祭
一月八日(火)

午前十時、本殿での祭典の後、内庭齋場に設けられた古式的に、禰宜二名が交互に三度矢を放ち、その当り具合にて今年の吉凶が占われます。

昨年を振り返って

納札殿建立



境内整備事業の一環として進められていた、神札やお守りを返納して頂くのに相応しい納札殿が去る三月二十七日に竣功致しました。新しくなった納札殿では、日々のお祓いは勿論の事、毎月一日には月次祭に併せて清祓式が執行されております。

利根康教宮司 階位浄階身分一級昇進



利根康教宮司におかれましては、平成二十四年三月一日付をもって、神社本庁より階位浄階身分一級を授かりました。

今後共、斯界隆昌の為、また神社としての社会的使命完遂に向けて益々の活躍が期待されます。

育成三団体 初合同宿泊体験



ボーイスカウト・ガールスカウト・少年館の育成三団体では、初となる合同宿泊体験を八月に実施致しました。最終日前夜には、利根育成会長も参加して、キャンプファイヤーを行い約百五十名もの参加者が一つの火を囲み、子供達のソングやスタンツ、指導者の出し物で大いに盛り上がり楽しい一夜を共に過ごしました。

『古事記』編纂一三〇〇年記念 「平野啓子語りの世界」開催

相模新能も古事記神話を典に

『古事記』編纂一三〇〇年記念「平野啓子語りの世界」開催
相模新能も古事記神話を典に
昨年は、現存する日本最古の歴史書「古事記」が編纂・撰上されてより、一三〇〇年を迎えた年でした。『古事記』は、我国の誕生、民族の誇りを語り、今日まで日本の精神文化と宗教文化に多大な影響を与えております。

現在の青少年教育の場では触れられる事が無く、世界の中でも水準の高い、日本文化の継承にも暗い影を落しています。

そこで当社では、『古事



「平野啓子語りの世界 ~天・空・宙~」



能「小鍛冶」

記の魅力に触れ、「神話」をより身近に感じて頂くこと、カタリストの平野啓子氏による「神話と古伝説の語り」を八月十四日に開催、古事記神話を原文と現代語を交え解かり易く楽しく語って頂いた他、寒川神社の起源ともされる「難波の小池」にまつわる伝説が披露されました。また、翌日に開催された第四十三回相模新能も『古事記』にゆかりある能「三輪」と「小鍛冶」の二曲が演じられました。

明治天皇百年奉告祭齋行



昨年は、近代日本の礎を築かれた明治天皇が崩御されてより百年を迎える年となりました。
当社におきましては八月一日に明治天皇百年奉告祭を齋行、明治天皇の御製に振付け、作曲された宮司舞である「朝日舞」が奉奏された他、参列者全員にて国歌「君が代」を斉唱しその聖徳を慕い仰ぎました。

全国一の宮会総会 寒川神社にて開催

九月五日・六日の両日に亘り全国に鎮座する一之宮で組織される「全国一の宮会」の総会・研修会が寒川神社にて開催されました。

総会後は、記念公演として神嶽山神苑を設計した枅野俊明氏により「鎮守の杜と庭園」との題にて講演頂いた他、県内神職が教化活動の一環として行っている「親子で親しむ神話」も公演され、参加者より好評を得る事が出来ました。



神輿修復 荘厳なる姿 蘇る

寒川神社の神輿は、昭和五十年に再建・奉納されましたが、漆や金具の腐食や本体の歪み等の損傷が見受けられましたこのたび三十五年振りに大改修され、六月三日修復作業も予定通り進捗し無事納められ、かつての荘厳優美な姿が蘇りました。

修復された神輿は、昨年の浜降祭にてお披露目された他、秋の宮山神社例祭にて氏子地域を威勢よく巡幸致しました。



人形感謝祭齋行



人形奉齋殿では、一昨年の竣功以来、お納め頂いた人形を日々お被いし、月毎に清祓式を齋行しており、十月十五日が人形の日であることに因み、第一回人形感謝祭を齋行いたしました。
日々親しみ、心を慰めくれつつも役目を終え、納められた人形に、感謝の念が捧げられました。

渾天儀建立

渾天儀は天体の位置や星の動きを観測する器具ですが、星の運行はすべての命運をにぎると考えられ、天文観測により暦が作られる日々の吉凶が占われるようになります。渾天儀自体が守護する物として扱われるようになりました。

そこで、皆様をご参拝の折にご覧頂き、八方除について深く理解され、更なる御守護を授かりますようお願い致します。

いを込め、内庭に設置致しました。



437

健康手帳

変形性関節症

宗教法入 寒川神社 寒川病院

整形 外科 科
リハビリテーション科 医長

赤塚 正洋



今回は変形性関節症（へんけいせいかんせつしょう）の話させていただきます。変形性関節症とは、関節が変形する事によって起こる病気です。加齢や使いすぎで関節が痛むと理解されています。発症する代表的な関節は股関節、膝関節などの体重負荷がかかる関節ですが、肩関節や手指の関節にも発症します。軟骨がすり減ったり硬化して関節に炎症を起こすと、運動時に痛みがでたり、関節の動きが悪くなりますが、進行すると安静時にも痛み（自発痛）が出てきます。老化などが原因で発症するものを一次性関節症、外傷や病気などが原因で発症するものを二次性関節症といいます。残念ながら現在傷んだ関節を、若かりし日の元気な関節に戻す治療法はありません。再生医療が進歩し実

用化され、この恩恵を受けられるようになるには、あと何年かの歳月が必要でしょう。でも日常生活での注意や薬で痛みが軽減したりまた仕事ができるようになる事もありません。

まずは関節の負担を減らすことです。膝や股の関節症では立ち仕事や長歩きを控える事、杖を使用したり体重を減らすことで除痛効果が期待できます。

次に大切なのは、適度な運動と筋力維持です。痛む関節の周囲に筋力がつくことと関節への負担も軽減されます。筋トレというときなりスクワットを何百回も始める人がいます。これは筋力増強には効果的かもしれませんが、関節への負担が多くなり、かえって痛みが悪化するにもなります。一番いい運動はプールで泳いだり水中歩行です。水中で

は浮力があり、荷重関節への負担も少なく全身の運動ができます。家で筋トレをする場合は、脚先に五百グラム程の重り（ペットボトルなど）をつけて脚の上げ下ろしをするのがいいでしょう。

痛みが酷いときは、薬を使います。関節の中にヒアルロン酸製剤や局所麻酔剤を注射したり、消炎鎮痛剤の内服や外用をします。

変形性関節症が進行しこれらの治療に効果がなくなり、日常生活が困難となれば、手術治療を検討します。変形の進行度合いにより、関節内デブリードマン（骨棘、遊離体や滑膜などの切除、関節内のお掃除）骨きり術（関節の角度を調整し傷んだ関節の負担を減らす）、人工関節置換（傷んだ関節を切除し、人工の摺動面に置き換える）などがあり除痛や日常生活動作の改善が期待できます。

整形外科の診療では、患者さんそれぞれの状態を見極めて、その患者さんに必要な治療を提供できるように心がけています。関節の痛みでお困りの際は是非当科にご相談下さい。

人事

◆退職
△寒川病院▽

看護師 新田 泰子
願いに依り職を免する
平成二十四年十二月三十一日

伊勢神宮・砥鹿神社 参拝旅行のご案内

◎期 日：平成25年3月3日(日)～3月5日(火)
◎募集人員：120名（定員になり次第締め切ります。） バス3台
◎参加費：45,000円 交通費・宿泊代・食事代・傷害保険料
伊勢神宮御神楽料・御神酒拝観等一切を含みます。

日次	月日(曜)	行 程	宿泊地
1	3/3 (日)	6:30出発 各地より→寒川神社→浜松市内(昼食)→ 伊勢神宮外宮(自由参拝)→鳥羽【宿泊】	【鳥羽】 戸田屋
2	3/4 (月)	7:30出発 鳥羽→伊勢神宮・内宮【正式参拝】おかげ横丁(昼食・買物)→ せんぐう館(見学)→館山寺温泉【宿泊】	【館山寺温泉】 ホテル九重
3	3/5 (火)	8:30出発 館山温泉→三河国一之宮・砥鹿神社【正式参拝】→きじ亭(昼食)→ 竜ヶ岩洞(見学)→焼津さかなセンター(買物)→寒川神社→各地へ	

◎お申込み・お問い合わせは 寒川神社 0467(75)0004へ

医療講演会のご案内

と き 平成二十五年一月三十一日(木)
と ころ 午後二時～三時
寒川神社 参集殿
「糖尿病の治療」
入場無料(申込不要)
内科医長 武村 文夫
電話 〇四六七(七五)六六八〇
寒川病院

冬川俳壇

雑巾に見覚えの柄煤払い
 木守柿空の淋しくなりにけり
 極月の山門に古る千社札
 自然薯を太刀の如くに背に負えり
 路地ぬけて冬満月と帰りけり
 うしろより肩叩かれし頬被
 枯芝をこるけて来し子に抱き付かれ
 年送る買つても読まぬ本二冊
 北風や横目で通る友の家
 道標文字のうすれし枯野かな
 舌戦の街にまぎれて年用意
 石までも枯るごとく大枯野
 母が居た頃が懐かし炉辺話
 息白し一人遅れて登校児
 おだやかな冬の磯辺や白秋碑
 極月や二度来る荷物宅急便
 大空をちぎれて流る冬の雲
 石一つ置いて岐れる枯野かな
 千社札べたべた貼る十二月
 羽子板やノーベル賞の山中氏
 海鳥や人に抗う冬渚
 今日ひと日風の無き日よ十二月
 シクラメン嫁がす如く出荷せり
 次に継ぐ命伏せある枯野かな
 柚子湯でも入る後先変らずに

根岸 君子
 岩田美代子
 芹沢 徳光
 岡田風呂釜
 松本美智子
 金指 月光
 山本 朝子
 金子 つづ
 倉谷 節子
 伊藤 公一
 露木てる子
 飛石 樺花
 浦野 房子
 菅沼うめの
 原野 楽天
 千葉 静香
 竹村真砂美
 相原 白路
 菅沼 保幸
 三輪 恭子
 宮入 つる
 四ツ車梢月
 松村 信篤
 今関 幸代
 皆川志んこ

一月 水舎奉掲

今上陛下御製

波立たぬ世を願ひつつ新しき年の始めを迎へ祝はむ

桐楼詠草

老いてなお短歌の道を唯一すじ心あかるく励んで行こう
 両手にて計れる程のにはたつみ電柱一本深く映しぬ
 「充分生きた」と常言つ夫を励ましつつ残り幾許の道を歩める
 稲穂たれ家族総出で汗流し今年も新米おいしく口にす
 ナナカマド真紅の輝き湖面染めきららきら深みゆく秋
 吾が病い気づかいくるる弟ゆ届くぶどうのほんのり甘し
 バラ一輪台風去りし日咲き初めし落葉散り敷く庭の一隅
 親芋を初殻に埋め光避けま白な芽芋の出来る春待つ
 「家中のトイレ遠し」と友の短歌痛み酷なり耐うも酷なり
 五合目のお中道散策妹と互の気遣い杖とし楽しむ
 金色の涙のように秋雨に金木屋は路傍を染める
 萩の花こぼすうす紅踏み行くに吹き来る風は耳沁み透る
 新しき年に住きことあれかしと常磐の松に結ぶ水引

三留とく子
 堀江 照子
 宇田川時子
 土屋トミ子
 浜田 寿子
 山口 幸子
 山根喜美代
 亀山 文字
 安藤 慧
 川島恵美子
 天利 春枝
 岡元 芳子
 杉本 照世

表紙写真説明

ねぶた囃子にて魂が込められるとねぶたの心に灯が点る

編集後記

年神の依り代である門松も最近めつきり見なくなつた

平成25癸巳年 厄年一覽表

性別	年齢 (かぞえ年)	前厄	本厄	後厄	性別	年齢 (かぞえ年)	前厄	本厄	後厄
男	25歳	平成2年生	昭和64年 平成元年生	昭和63年生	女	19歳	平成8年生	平成7年生	平成6年生
	42歳	昭和48年生	昭和47年生	昭和46年生		33歳	昭和57年生	昭和56年生	昭和55年生
	61歳	昭和29年生	昭和28年生	昭和27年生		37歳	昭和53年生	昭和52年生	昭和51年生

年神は歳徳神と呼ばれ縁起の良い神様である。
 是非とも門松を飾り、幸福を招き入れて欲しいと思う